



子宮筋腫の話 (前編)

産婦人科 主任部長

佐々木 泰



子宮筋腫の症状

月経痛や過多月経・過長月経等、月経に関する症状が最も多いです。月経の量や期間が過剰になった結果、貧血が進行することがあります。検診で貧血を指摘され精査したところ、子宮筋腫が原因だったということは珍しくありません。非常に高度な貧血を認めることがあるほか、不正性器出血や不妊の原因となることもあります。

筋腫の種類とその特徴

子宮筋腫は子宮にできる腫瘍ですが、その場所により3つに分類されてそれぞれに特徴があります。

1. 漿膜下筋腫 しよまくかきんしゆ 子宮の外側に向かって突出した筋腫で、基本的には無症状なことが多い
2. 筋層内筋腫 子宮の壁の中にできる筋腫で、大きさにもよりますが月経痛や過多月経の原因になることがある
3. 粘膜下筋腫 子宮の内側に突出した筋腫で、比較的小さくても過多月経等の症状を呈することが多く、不正性器出血や不妊の原因となることもあります。このほか、筋腫分娩(茎状部分を有する粘膜下筋腫が増大して子宮口より筋腫が外に出そつになること)により、筋腫が子宮の出口に挟まっているときに持続的で大量に出血することもあります。

多発筋腫 筋腫は1個のみ発生するとは限らず、複数が同時に発生することがあります。また、複数発生したときは右記の漿膜下、筋層内、粘膜下の筋腫が混在していることもあります。

来月は、この子宮筋腫の治療についてお話しします。

子宮筋腫(子宮の壁にできる良性の腫瘍)は、婦人科医が日常診療でよく出会う疾患の一つで、30歳以上の女性の30~40%程度に見られます。

子宮について

子宮は、妊娠時の中で胎児を育てるための臓器です。妊娠可能な年齢の女性の子宮は、妊娠していないときは概ね鶏の卵程度の大きさで容量は2ml程度ですが、妊娠末期にはおへその高さをはるかに超えるまでに膨らみます。中に赤ちゃん、胎盤、羊水を収納しているのです。その容量は4,000~5,000mlと妊娠前の約2,000~2,500倍にもなります。鶏の卵が、妊娠末期にはスイカ程度の大きさになっていることになります。

このような変化が可能なのは、子宮が平滑筋という非常に伸展性に優れた組織でできているからです。平滑筋の伸展性により、子宮は約280日間の妊娠期間に他の臓器では考えられないほどの増大を見せ、分娩後は短期間で縮小し、やがて元の大きさに戻ります。妊娠中の平滑筋の伸展と子宮の増大には、女性ホルモンが関係しています。さらに、子宮が平滑筋でできているのにも一つ大きな理由があります。平滑筋は「筋」の名の通り筋肉の一種です。強い収縮力を持つため、

妊娠の最後に赤ちゃんを娩出する(産み出す)ことができません。また、赤ちゃんを産んだ後、不要になった胎盤が産み出されますが、胎盤が剥がれた後は母体血管が剥き出しになります。そのままだと出血が止まらなくなりますが、子宮の平滑筋が収縮して子宮が縮むことにより、この剥き出しの血管が締められて止血されます。(この分娩後の収縮が不良で出血が続く状態が弛緩出血)

子宮筋腫とは

子宮筋腫は平滑筋からできた子宮の腫瘍です。平滑筋からできたといっても、自分勝手に増殖した腫瘍なのでその配列には規則性がなく、正常な平滑筋のような伸展性もなければ収縮力もありません。腫瘍性の発育であるため、通常の平滑筋に比べ細胞が密で硬いことが多いのも特徴です。子宮にできたコブのイメージです。

この子宮にできた出来損ないの筋肉のコブですが、伸展性や収縮力はありませんが女性ホルモンに反応して大きくなるという特性は残っています。したがって、女性ホルモン(エストロゲン)が活発に出ている時期(30歳~40歳代前半)の女性では大きくなりやすい特徴があります。逆に、閉経後の女性では増大することはなく縮小する例もあります。